**楡**りょう 星霜深き原始林暗しせいそうふか に月は懸れども

思い分かたん術も無なる 蓁萋ゆらぐ風有れど

える春まだ遠く

の音遠く聞えども

石狩の野今何処辛夷花咲く黎明と 雑ざっとう の声さざめきの いく黎明、 ĩ

慟哭の声上げらんと そびゆる聳天樹は堂々と 天空破る落雷はあれ

意気揺籃の時は今い きょうらん とき いま

黄鶴消えて姿無し 変らぬ沈黙奇しきかなから

銀晶ふるう雪原なれども

天に無尽の星光 白 は 乗ぁ 永ヒ 遠ゎ の城に覚醒い の生命を誦 八の北斗星のほとほし 主を仰ぎ げ ども

わなん

夢。 見ゃ 未明に懸る白き月 し思う北溟の海